

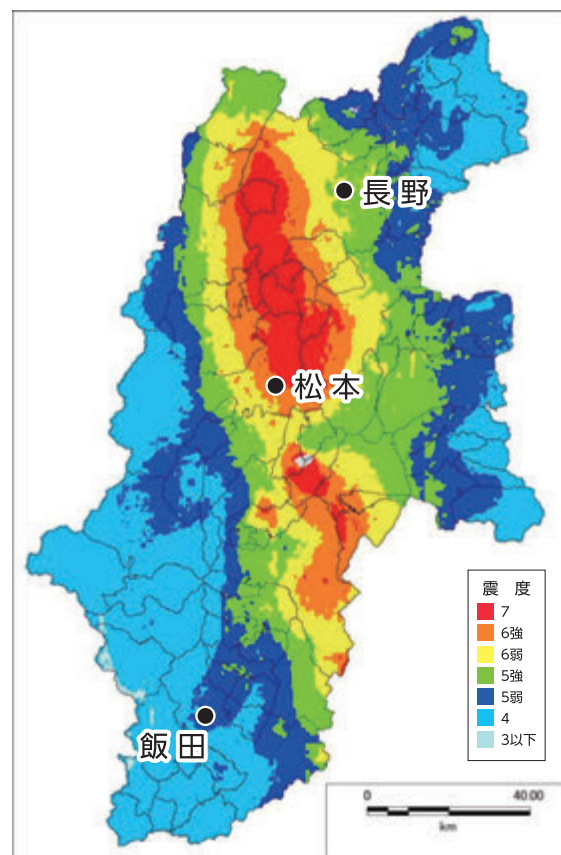
3 これから、どんな災害が起こり得るのか？

大規模地震

平成 27 年（2015 年）、長野県では、県内で起こり得る大規模地震について被害想定調査を行い、その結果を公表しています。

それによると、県内で最も被害をもたらすと想定されているのが「糸魚川－静岡構造線断層帯の地震」です。また、「南海トラフ地震」が発生した場合、県内では南信地域を中心に被害が予想されています。

糸魚川－静岡構造線断層帯(全体)の地震



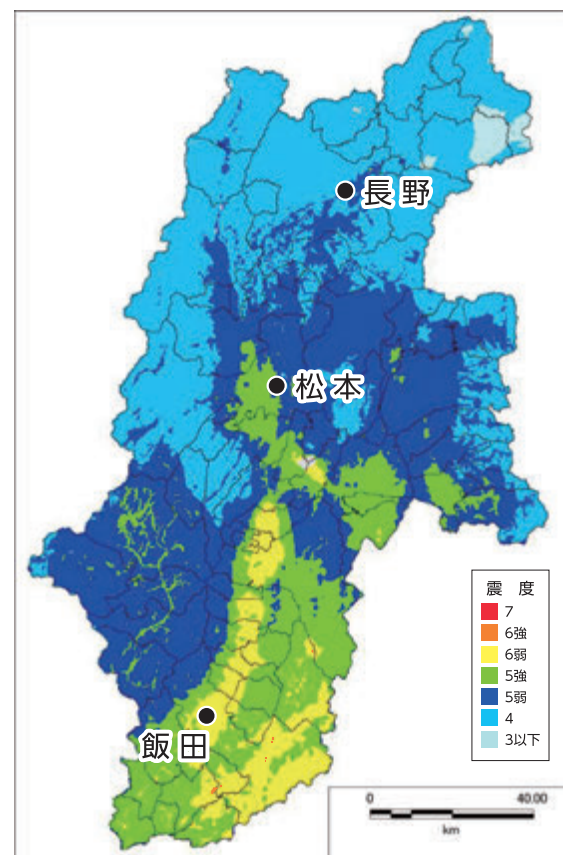
想定される被害の特徴

死者数：約5,600～7,100人
全壊・焼失建物数：約83,000～98,000棟

甚大な被害が発生する地域が、長野県内の広域に分布しています。震度6強以上の揺れの地域も、非常に広範囲に及びます。

30年以内の地震発生確率※
14～30%

南海トラフ地震(陸側ケース)



想定される被害の特徴

死者数：約130～180人
全壊・焼失建物数：約2,200～2,300棟

長野県内では、特に諏訪市で液状化被害が多く発生します。震度6強以上の揺れが想定される地域もあります。

30年以内の地震発生確率※
60～90%程度以上

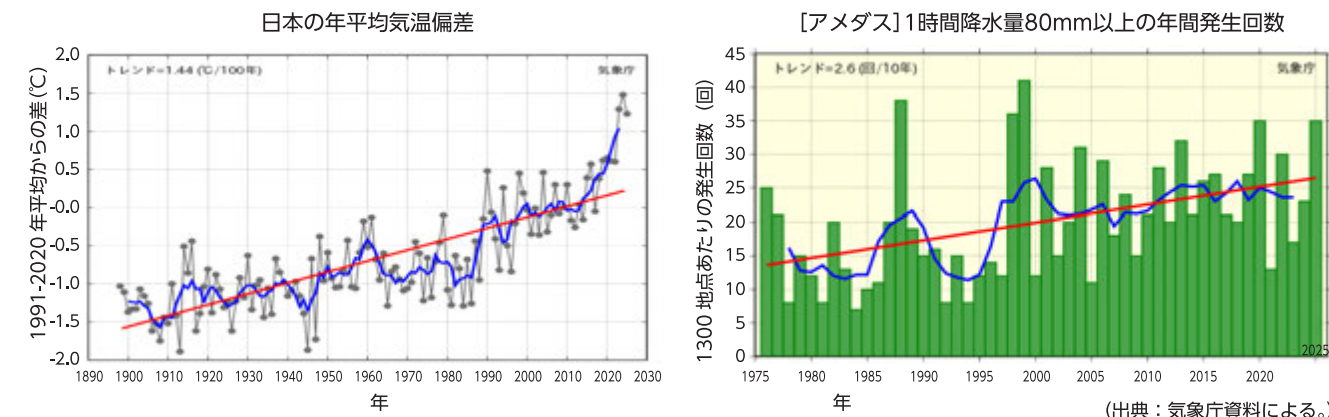
※地震発生確率の数値は、政府地震調査研究推進本部の公表結果（令和7年9月）によるものです。

なお、平成7年に発生した阪神・淡路大震災について、当時の30年以内の地震発生確率は「0.02～8%」だったとのことです（後の計算による数値）。このことから、上の2つの想定地震の発生確率が極めて高いということが分かります。

水害・土砂災害

気象庁の資料によると、2025年の日本の平均気温は、過去30年（1991年～2020年）の平均と比べて1.23℃高くなりました。これは、1898年の統計開始以降、3番目に高い気温です。また、日本の年平均気温は、年ごとに変動を繰り返しながら上昇しており、長期的に見ると100年あたり1.44℃のペースで上昇しています。特に1990年代以降は、高温となる年が頻出しています。

地球温暖化の進行に伴い、大雨の発生回数も年々増えています。全国のアメダスの観測によれば、「1時間降水量80ミリ以上」の猛烈な雨が降る頻度は、1980年頃と比較して、おおむね2倍程度に増加しています。



火山災害

長野県内及び隣接県との県境付近にある活火山のうち、右の図に示す7火山については、火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山（全国50火山）として、気象庁が24時間体制で常時観測、監視しています。

火山周辺で暮らす皆さんや、登山を楽しむ皆さんは、火山に対する正しい知識を持ち、最新の情報を事前に収集することが重要です。



防災ダックのまとめ

年々激甚化する風水害。みんなの記憶や想像を超える災害が起こる日は、すぐそこに迫っているかもしれない。

また、地震は過去同じ場所で繰り返し発生しているんだ。次の地震は、明日かもしれない。みんなは、その準備ができているかな。

